



幼 兒 の 劇

長 尾 豊

四六

一
近來、兒童劇といふことが言出されてから、幼兒の劇演出を、試みる所も少なくないが、普通に言はれる兒童劇と、幼稚園兒や低學年兒童の演ずる劇といふものとは、同じやうに取扱へないやうにも思はれる。その證據には幼稚園などで、普通わが國では言はれる兒童劇の立場から演ぜられたものを見ると、初まつたかと思ふとすぐ終ひになつて、しかも何をやつたのか、何をして居るのか少しも分らないといふやうな物や、さうでなければ子供が教へられた通りに動いて、ものを言つてゐる、少しも幼兒の劇演出らしくないやうな物である場合が多い。

兒童は生れながらの演者であるといふやうな議論を聞いて、さて此のふしぎな幼兒の演出を見るに、その議論と實際の餘りにも違ひすぎるのに驚かされる。これは一體議論の方が違ふのか、實際のやり方が間違つてゐるのか、少し考へて見る必要がある。

一體、西洋の兒童劇にも教育的な兒童演出とさうでないものとは、材料の選み方なり全體の取扱ひ方なりが著しく違つて見える。どちらが好いかと言へば、十分教育的に考へられたものゝ方が好い譯であるが、その何れもわが國に流れ込んで來てゐて、その間に截然たる區別がありながら、それが混じ合つて唱へられ、行はれてゐるや

うなのがわが國の現状であつて、二者の區別をハッキリ立て、居られるのは、先輩小山内薫氏ほか二三の人に過ぎない。

漠然とした兒童劇の議論ならばとにかく、それが幼稚園とか小學校とかいふやうな、教育機關に入込んで來るとすれば、モウ單なる兒童劇の議論では追附かれないと思ふ。教育演劇の一科としての兒童演出として考へられなければならない。

二

幼兒の劇を教育演劇中の一科として考へることは、徒らに議論をむづかしくする事ではなくて、反對にその實施を容易にする事と思ふ。たとへば教育演劇の中に幼兒が聞いたお話をそのまま立つて演ずる、といふよりは遊戯する自由劇化のお話あそびといふものがある。これは劇演出の基礎となるもので、教育的意義も價值も、一足飛びな劇演出などより豊富なものと思はれるが、劇に固執

し、劇と言はなければ喜ばれぬわが國では、最近まで人の注意を惹かなかつたやうである。

又、唱歌遊戯や童謡の劇化も、西洋ではお話あそび同様、戯曲遊戯として教育演劇の中に數へられてゐる。さういふものを考へずに出しぬけに幼兒の劇演出に走らうとするのは、無謀の擧と言はなければならぬ。けれどもこれは幼兒の劇が教育演劇として考へられず、又その研究の機關も方法もない時にあつてはけだし當然の事で、従つて正しい幼兒の劇演出を行ふ事が出來ない結果に成つてゐる。

又、西洋では幼兒の遊戯、唱歌、童謡、お話、劇などが連絡綜合されてゐるのに反し、わが國では童謡と言へば童謡に限り、お話と言へばお話を限り、そして劇と言へば單に劇だけに限つて取扱はうとするから、本來ひとつものでなければならぬ幼兒の歌やお話や劇などが、十分に調べられも

しなければ、扱はれもしないといふ有様であるらしい。

劇を尊重する人は童話劇といふ名稱をさへ嫌ふらしいが、併し、さういふ人達の試みてゐる兒童劇でさへ、その材料の多くは寓話や童謡や童話の劇化である。お話といふものを引離して、幼兒の劇が考へられないとすると、幼兒演出に携はる者は、先づ幼兒の劇と共に幼兒ばなしについて理解がなければならぬ事になる。

三

わが國では童謡は童謡、童話は童話、そして兒童劇は兒童劇といふやうに、箇々に分れてゐるが、少なくとも此の三つぐらゐは、兒童文學として、連絡して扱はれなければならぬものと思ふ。又、童謡をどりとか、話方とか、劇の演出とかいふ風に、更に細かく幾つにも分れて行くが、これも遊戯や手技や兒童畫と共に、兒童藝術として箇々別々な

ものでなく、総合的に取扱はれても好いと思ふ。さうでなければ劇演出のやうな総合的なしごとは望んで得られぬ事である。其所までもいつて居ないで、一足飛びに劇演出を試みれば失敗し、破綻を來たすのは自明の理であらう。徒らに劇の虛名に浮かされないで、歌と劇、お話と劇、そして何よりも先づ幼兒遊戯としての演出といふものから考へて、おもむろに幼兒の劇に進むのが、かへつて早道ではないかと思はれる。

